

「京都や地域で学ぶ強みを生かす子どもの育成（2年次）」

— 京都や地域再発見につなげる「伝統と文化」に係る学習の構想 —

今井 大介（京都市総合教育センター研究課 研究員）

本研究では、京都や地域で学ぶ強みを生かす子どもを育成するために、「発見⇒発信・交流⇒振り返り⇒再発見」の過程を重視した学習を構想した。第3学年の実践では「京都にゆかりのある昔話」「京ことば」を学習素材として、第6学年の実践では「平安京」「世界文化遺産」などを学習素材として、総合的な学習の時間に位置付け、実践授業に取り組んだ。その結果、京都や地域の「伝統と文化」に対する理解や考えを深め、「京都のことをくわしく知りたい」「京都のことが好き」という子どもが増えた。

第1章 京都や地域で学ぶ強みを生かす子どもの育成に向けて

第1節 京都や地域で学ぶ強みを生かす

枠内は、子どもたちにとっての、また、指導者にとっての「京都や地域で学ぶ強み」を筆者がまとめたものである。

子どもたちにとって

○京都に根ざす「伝統と文化」についての学習を容易に追究できる環境にあること

指導者にとって

○京都に根ざす「伝統と文化」の学習素材となる環境及び取組が数多くあること

第2節 京都や地域で学ぶ強みを生かす子どもとは

枠内は、本研究において目指していきたい京都や地域で学ぶ強みを生かす子ども像である。

○京都の「伝統と文化」の歴史的な意味や内容、それに携わってきた人のおもいや願いなどを理解できる子ども

○京都や地域を好きになったり、誇りに思ったりできる子ども

○京都や地域の「伝統と文化」を体感したり、発信・交流し、それを振り返ったりすることで、京都や地域の「伝統と文化」に対する理解や考えを深める子ども

以下の①②③は、京都に根ざす「伝統と文化」を学習に位置付けるときの基礎的な視点であり、京都や地域で学ぶ強みを生かす子どもを育成するための手だてとして、大切にしていきたい。

①資料活用 ②施設の活用 ③学習形態の工夫

特に、③は、他学年に発信したり、他校と互いに発信・交流したりする場面を設定することで、京都や地域に根ざす「伝統と文化」に対する子どもたちの見方・考え方の広まりや深まりが期待できると考える。

第2章 京都や地域を再発見するために

第1節 京都や地域再発見につなげる「伝統と文化」に係る学習の構想に向けて

昨年度は、子どもたちが「伝統と文化」を理解していく過程を次のように設定した。

- ①「文化」との出合いから、②「文化」をみる目をもち、③「文化」が「伝統」に支えられているということに気づき、④「伝統と文化」を大切にする態度を形成する。

本年度の研究の構造は、図1のように設定した。

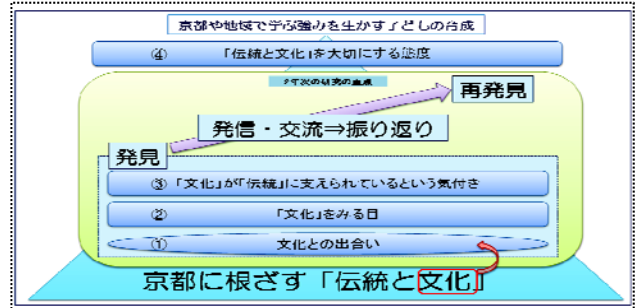


図1 研究の構造

特に、「発見」から「再発見」を実現するために、「発信・交流⇒振り返り」の過程を重視した学習を構想し、実践していきたいと考えた。

第2節 「伝統と文化」を軸にした学習

「伝統と文化」を軸にした学習を行うとき、表1の理由から、低学年では生活科、中学年・高学年では社会科及び総合的な学習の時間で、単元を構想し、実践していくことが有効だと考える。

表1 「伝統と文化」を軸にした学習

学年	各教科等	理由
低学年	生活科	子どもたちが「身近な地域」について学ぶことができる。
中学年・高学年	社会科	「身近な地域→自分の住む市、府」というように、身近なところから京都に根ざす「伝統と文化」を見つめていくことができる。
	総合的な学習の時間	地域の人々の暮らしや「伝統と文化」など、地域や学校の特色に応じた課題設定や学習内容を定めることができる。

第3章 京都再発見につながる学習の実際

－「総合的な学習の時間」における事例－

第1節 M小学校第3学年の取組

M小学校では、研究協力員の先生と相談した上で、全17時間設定で単元「京都や地域で伝え続けたい昔話や京ことば」（表2）に取り組んだ。

表2 「京都や地域で伝え続けたい昔話や京ことば」の主な学習活動（全17時間）

過程	時	学習活動
発見	1	○「古典の日記念 京都市平安京創生館」の「平安京創生館『探検マップ』」から、「枕草子」と「源氏物語」に関心を持ち、それらが平安時代のお話であることに気付く。
		○生活経験や既習事項から知っている昔話について話し合う。
	3～5	○「京都にゆかりのある昔話」を読み、お気に入りの作品を選び、おもしろかったところや気になった言葉について交流する。
		6
再発見	7～14	○さらに、「京都にゆかりのある昔話」や「京ことば」について調べ、まとめる。
		15
発信（交流）	16	○「京都にゆかりのある昔話」や「京ことば」について学んだことについて振り返る。 ※「京都にゆかりのある昔話」に出てくるところが身近な場所であることや、日常生活で何気なく使っている「京ことば」があることを再発見する。
振り返り・再発見	17	

1年生や中学生からの感想やアドバイスを受けた、子どもの振り返りを枠内に示す。

・ぼくは、1年生や中学生の先ばいからのメッセージがとてもうれしいです。なぜかという、1年生に「ぐるぐる」という京ことばを知ってもらえたからです。ぼくも「ぶぶづけ」という京ことばが、お茶づけだと知りませんでした。でも、中学生に教わったから、ぼくもわかりました。

「京ことば」「京都にゆかりのある昔話」について学習したことを、1年生や中学生に発信し、振り返ったことで、発信者である子どもたちが「京ことば」や「京都にゆかりのある昔話」に対する理解や考えを深めること（再発見）につながった。

第2節 A小学校第6学年の取組

A小学校では、研究協力員の先生と相談した上で、全18時間設定で単元「京都や地域の魅力を『未来へ』」（表3）に取り組んだ。

表3 「京都や地域の魅力を『未来へ』」の主な学習活動（全18時間）

過程	時	学習活動
発見	1	○「学習に活用できる『平安京創生館』」を見て、「古典の日記念 京都市平安京創生館」を見学したときのことを振り返る。
		○国宝「洛中洛外図屏風（上杉本）」の写真資料を観察し、その中から、京都の伝統として、今後も大切にしていきたいものを選ぶ。
	2～4	○京都の魅力について考え、交流する。 ○京都の魅力について考え、交流したことを受けて、「京都で伝統としてつながっているもの、また2020年に『京都や地域の魅力』を探して、追究していこう」という新たなめあてを設定する。
再発見	5～15	○未来に伝えていきたい「京都や地域の魅力」を追究し、それを整理・分析して、まとめる。
		16
発信・交流	17	
振り返り・再発見	18	○他校と発信・交流し、学んだことを振り返る。 ※京都では、歴史だけではなく、伝統産業、年中行事など、数多くのが脈々と受け継がれ、それらが現代、そして未来へとつながっていることを再発見する。

ここでは、『伝統と文化』の学びを発信・交流する会を設定し、A小学校の子どもたちとS小学校の子どもたちが、京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）の研修室に集い、「伝統と文化」について学習し、まとめたことを互いに発信・交流した。

枠内は、両校の子どもたちの振り返りである。

・同じテーマのところへ聴きに行くと、僕たちの調べた内容と違ったので、さらに理解を深めることができました。僕たちは平安京について調べたけれど、都が京都に移された動機までS小学校の人は調べていてすごいと思いました。
・京都の魅力は主に平安時代から始まっていると思いました。着物の文化も平安からとA小学校の平安京グループから聞いたし、五山の送り火も、もとは平安からだと言われているし、平安時代についてももっと調べれば、京都の魅力をもっと知ることができると思いました。

2校で互いに発信・交流する場面を設定したことで、子どもたちは、「京都や地域の魅力」を再発見することができた。

第4章 研究の成果と課題

－実践授業を通してみえてきたこと－

実践授業を通してみえてきたことを、枠内の三点にまとめた。

- ①実践授業前後のアンケート
- ②創生館での見学学習を発展させた子どもの姿
- ③つなぐ

子どもたちの学びをつなぐ 小・小をつなぐ
小・小・施設をつなぐ 小・中をつなぐ

実践授業後のアンケートから、本研究の発展的な成果として、次のような子どもの姿が明らかになった。

ロンドンの友だちに、むかしばなしを手紙で送ってあげました。

これは、M小学校のN児が記述欄に書いた文である。N児は、授業で聞いたり、読んだりした「京都にゆかりのある昔話」をおもしろいと感じていた。そして、外国に住む友だちに伝えたいとおもい、送ったというのである。

更に、N児は、「京都の昔話」を追究するグループの一員として学習を進めているときに「わたしは『おさるのしりはなぜあかい』のおもしろさを1年生や中学生に知ってもらいたい」と話し、図2に示すポスターを作成している。



図2 N児が作成したポスター。これらは、まさに「伝統と文化」を広く発信している姿だといえる。